

## 落とし穴

2024.12.11

人を育てる。それは、我々の人生における大きな課題の一つである。先輩として後輩を、上司として部下を、経営者として社員を、教師として児童生徒を、親として子どもを育てる。その課題に直面したとき、我々が理解しておくべきことがある。それは、人を育てるといふ営みに忍び込む3つの落とし穴である。

一つは、相手を客観的な対象として見てしまう「対象化」である。もう一つは、相手を自分の望む方向に変えようとする「操作主義」である。そして、相手の成長を目標達成の手段と考えてしまう「手段化」である。

職場で、会社で、家庭で、教えても育たないと悩むとき、多くの場合、我々は、この3つの落とし穴に陥っている。では、この落とし穴に陥らないためには、どうすればいいのか。まず、一つの覚悟を定めることである。「人を育てるとは、己を育てること」その覚悟を定めたとき、相手との間に一体感や共感が生まれ、信頼が生まれ、成長そのものが素晴らしい目標であるとの意識が生まれてくる。

そして、その覚悟を定めたならば、我々が為すべきことは3つである。一つは、成長の場を創ること、もう一つは、成長の目標を見せること、そして、成長の方法を伝えることである。この3つを、心を込め、祈りを込めて行うならば、人は、誰もが、自らの中にある生命力によって成長していくことになる。

今までに、何度も落とし穴に陥ったことがある。そのつもりはないのだが、気がつくとし穴にはまっている。それだけ、人を育てることはむずかしい。思うようにはいかない。最初に、落とし穴のことを認識したのは、中学校の部活動である。小学校から中学校に異動となり、部活動の顧問となった。自分なりに練習内容を工夫し、大会に臨んだ。意外と勝てなかった。ソフトテニスをやっていた私は、その当時、ちょっと鍛えれば勝てるだろうという楽観的な甘い考えをもっていた。だが、現実には甘くはなかった。

そこで、考えた。なぜ勝てないんだ。ようやくわかった。勝ちたかったのは自分だと。気がついた。勝ちたいのは、指導者である自分だということに。これではだめだ。考え方を改めた。それからである。不思議なもので、同じような練習をやっている、大会では勝てるようになってきた。きっと、操作主義と手段化の落とし穴に陥っていたのである。

人を育てたいと思っている。それは、自分が成長したいためである。人を育てながら、自分も成長したいのである。これは、むずかしいことではあるが、人生において素敵なことでもある。